

原型ハ寧ろ葉ノ細カク裂レル方ノモノデ、裂片ノ幅ノ廣イ方ハ、其變種デア
 var. *pimpinellifolium* (CAV.) SMITH デアル様ニ思ハレタ。而シテ、前述セル草
 木圖説ノ圖ハ、アノ程度ノ圖デ比較判斷スル事ハ困難デハアルガ、之ニ近イト
 云ヒ得ル様ニ思ハレタ。文献ヲ見ルト、例ヘバ R. KNUTH, Geraniaceae (1912)
 in Pflanzenreich ナドニハ *E. cicutarium* ニハ、相當多クノ形ガアリ 其等ガ變
 種トシテ扱ツテアル。從ツテ、種トシテノおらんだふうろハ多様デアツテ、其
 内ノ二型ガ伊丹市ニ混生シテ居ル事が、宇井氏ニ依リ發見サレタワケデア
 ル。勿論之等ハ、近代ノ侵入者デ、往時ノモノ、子孫デハアルマイガ、從來ノ古イ
 標本ト慾齋ノ圖トカラ見テ、昔ニモ今日同様ニ二型ガ來テ居タモノト考ヘラレ
 ル。尙各萼片ハ、橢圓形デ尖端尖リ、更ニ多細胞性ノ白色毛ガ1本出テ居ルコ
 トガ、特徴ニ數ヘラレテハ居ルガ、乾クト折レ易イ。背面脈上ニハ、可ナリ長イ
 多細胞性(通常3節ヨリ成ル)腺毛ガアリ、先端ハ黃色、球狀ヲ呈シ、分果ニ殘
 存スル嘴狀ノ花柱ハ、中部デ螺旋狀ニ屈旋シ、花柱ノ外側面ニハ微毛密生シ、内
 側面ニハ微毛ハ無ク、上向性ノ髯ガアル。分果ノ外側面ニハ刺毛ヲ見ル。本屬
 ハ云フ迄モナク、日本ニハ産シナイガ、野生化シタモノガ見出サレル様ニナツ
 タトスレバ、日本ニ産スル雜草トシテ一應取扱ハナケレバナルマイ。

雜 錄 Miscellaneous

○ふぢノ種子ノ中毒 (松田孫治)

ヨク當地方デハ子供等ガ早春未ダ雪ノアル中ニ、ふぢノ莢ヲ取ツテ來テ打割テ種子ヲ取
 リ、炒テ食スルノデアルガ、多量ニ食スルト眩暈ヤ嘔吐ヲ催スニ至ルカラ注意ヲ要スル。

○えんれいさうノ果實ノ中毒 (松田孫治)

えんれいさうヤしろばなえんれいさうノ果實ガ熟スルト漿質トナリ、一種ノアルコール
 様芳香ト淡イ甘酸味ヲ有シテ一寸味が良イ。秋田縣ノ或所デハ方言ニあまきけト稱シテ盛
 ニ食スル。或子供ノ報ズル所ニ依レバ、未熟ノモノヲ多量ニ食シタ所ガ、腹痛ト嘔吐ヲ催シ
 タトノコトデア
 ル。

○どくうつぎノ果實ノ味ト中毒 (松田孫治)

どくうつぎノ黒紫色ニ熟セル實ノ味が甘イコトヲ牧野博士ハ嘗テ本誌上ニ述ベラレタ
 ガ、私ハ未熟ノ紅色ヲ呈セルモノヲ味ツテ見タ所ガ、稍酸味ヲ有スルノミデアツタ。斯クノ
 如キ味ナレバ子供等ガ誤ツテ食スルトキ多量ヲ食スルニ至ルト思ハレル。

昭和7年以降13年7月迄ニ秋田魁新報紙上ニ報ゼラレタ中毒ハ、私ノ目ニ留マレルモノダケデ5件デ、中毒者ハ7名デ死亡セル者ノミヲ報ゼルモノ故カ何レモ死亡シテ居リ、年齢ハ3歳カラ7歳マデデアツタ。

○はなひりのきノ中毒事件 (松田孫治)

はなひりのきは、秋田縣デハ苗代ノみみずノ一種ヲ驅除スルニ使用シテ居ルガ、昭和13年6月10日ノ秋田魁新報紙上ニ、「恐ろしや毒草中毒、味噌汁で一家四名、老人一名は死亡」ト云フ3段抜ノ見出シデ、秋田縣雄勝郡西成瀬村ノ佐々木某ノ家族デ70歳ニナル老婆ガ、本種ヲ間違ヘテタ食ノ汁ニ入レタ爲ニ4名ガ中毒シ、内多量ニ食シタ77歳ノ老人ガ死亡シタコトヲ報ジテ居ル。其汁ハ辛クテ大變デアツタ由。

○くまのみづきノ北限 (松田孫治)

くまのみづきは前川文夫氏ガ本誌第15巻第3號ノ落穂集(其一)中ニ、“鬱陵島及本州下野邊リガ北限デアラシイ”ト述べラレテ居ル。日本植物總覽(昭和6年)ニモ本州デハ中南部ニノミ分布スル様ニ記サレテ居ルガ、北部ニモ産スルコトハ下記ノ通りデアル。

村松七郎氏ノ秋田縣植物誌(昭和7年)ニハ、秋田縣ノ中央部ニ位スル伏別・廣面・馬場目等ノ産地ヲ擧ゲテ居ルガ、筆者ハ秋田縣北部ニ位スル北秋田郡六葛村ニ採集シテ居ル。本縣内デハ稀ナル様デアル。結城嘉美氏ノ山形縣植物誌(昭和9年)ニ據レバ、縣内所々ニ産スル様デアリ、稍稀産ノ由ガ記サレテ居ル。次ニ青森營林局ノ岩手縣基準植物目録(昭和10年)ニハ1個所産地ガ記サレテ居ルガ、同局ノ三陸植物誌(昭和10年)ニ據レバ、“下北郡佐井、尙陸中陸前ニ多シ”ト述べテ居ル。

以上ノ本州北部産地ヨリヌルト、將來ハ或ハ北海道ノ南部ニ見出サレル可能性ガナイデモ無イガ、今ノトコロ下北半島ノ佐井附近ガ北限ニアタル様ニ思ハル。

Errata in Vol. XVII, No. 7, p. 414, Zeile 5 von unter.

Statt (誤) „var. *stigmata*” lies (正) „var. *estigmata*”